

## 今日のみことば

### □ 8月19日(日) 歴代誌下 36章

ここにはユダの最後の王、エホアハズ、エホヤキム、エホヤキン、ゼデキヤの治世とユダ王国の滅亡が記されている。神に建てられた王国も、忠誠に欠けると最後は滅びである。

### □ 8月20日(月) エズラ 1章

バビロンを征服したクロス王は、彼の一般的政策として捕囚の人々をそれぞれの故郷へ帰し、民心をとらえることであった。その結果エレミヤの預言が実現した。

### □ 8月21日(火) エズラ 2章

帰ったのは一部にすぎなかったが、バビロンにとどまった人々たちにはエルサレムの事業を支えるために、惜しみなくその財を提供するようとの激励が与えられた。

### □ 8月22日(水) エズラ 3章

ユダヤ人は最初の公の行動として、祭壇を建てた。それは神のご臨在と守りを意味するものであった。国としての目標と、主のみに仕える献身の気持ちが表された。

### □ 8月23日(木) エズラ 4章

神のわざには、必ず神に敵対する人々の妨害が伴います。アルタシャスタの治世のこと、執拗な妨害反対があったが、神はそのような事態を解決するため主の僕たちを整えられた。

### □ 8月24日(金) エズラ 5章

神の僕ハガイとゼカリヤを通して、明らかな神のご命令が伝えられた。さらにユダヤ人は大胆にも、建築を進めるよりどころを、クロス王の命令の権威に訴えました。

### □ 8月25日(土) エズラ 6章

神殿再建はまず主が命じ、それから主の道具として用いられた王たちによって命じられたものであると、エズラは書いている。神殿の再建はBC 515年に完成した。

---

ろ ぼ No. 1881  
2018年 8月19日  
日本バプテスト立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ロマ 8:18

現在の苦しみは、将来のわたしたちに現わされるはずの栄光に比べると、取るに足らないとわたしは思います。

「肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります」(8:6)とパウロが告げるそこに私は彼の思いをしっかりと聞き取らせていただきながら、今ここに生きる、この私を読み込ませていただいています。私はみ言葉にしっかりと自分を生かさせていただきたいと思っていることです。この暑さの中にある8月ですが、私たちはどうしても抜けて通ることが出来ない出来事にぶつからせていただいているのです。私は、特に日本人として向きあわせていただく中でこのロマの信徒への手紙を通してパウロ語る「福音」が、どのように刻み付けられているか、心に突きつけられ、問われています。

造られたものがいかにみ心を戴して生きているか、本当にこの現実の世界がどのように生きようとしているかを目のあたりにしながら、パウロが語る言葉に触れるとき、わたしは現実を見てしまうのです。第二次世界大戦で日本は敗戦を迎えて73年になります。その間、私たちは何を体験し、何を語ってきたのでしょうか。そしてその結果、それらの思いが生かされていない現実、私たちはぶつかっているではありませんか。私たちは何を見ているのでしょうか。情けない現実には私は目を覆いたくなります。

この造られた者の世界は、相も変わらず、あのエデンの園での出来事を引きずっていることに、驚きを禁じ得ないのです。しかしそれが人間であり、神さまは人間をそのように創造され

ました。それこそが私たちがしっかり記憶しなければならない真実ですし、神さまは何とむごいお方かと思っています。私たちはそこで何を求め、考えていますか。それでも私ははっきりと、命と平和を切に求めていることを表明させていただくことに、少しも異論はありませんが、そこで大きな間違いをしているとパウロは告げるのではありませんか。

それは最初の人が出した肉の思いです。私は何時も、なぜ神さまは人間をこのように創造なさったのかと、恨めしく思っていますが、それこそが神さまが人間に与えられた最高の賜物だと言わせていただかねばならないことも事実です。私たち人間は、最高に自由に生きるものとしていただきました。私たちはそれを本当に謳歌してきたではありませんか。今日の世界の悲惨は実にそこにあります。パウロが「肉」を表現するときいくつかの意味がありますが、ここでパウロは、人間の全人格、生き方、あり方を表現として、人は罪の中にあると私たちに伝えていると読ませていただいています。

この私が求めている命と平和は、この私ができるものです。この私のものを得るためにそこに闘争が始まり、願いと違うものが出てきてしまいました。いま世界の多くの指導者たちが求めているものがそれでしょう。しかしそれは違うでしょう。いま神さまは、その私たちにもう一度機会を与えて下しました。

「現在の苦しみは、将来わたしたちに現わされるはずの栄光に比べると、取りに足らないものとわたしは思います。」(8:18)とパウロは言いました。

もう一度「福音」とは何ですか。イエス・キリストは何を告げ、いかに生きてこられましたか。私たちの勝利は、イエスの十字架の死と復活による救いです。

次週の聖書・説教

ロマ8:31-39

さらなる勝利

## 聖書の学び・祈禱会

創世記25:1-11

アブラハムの想いを超えて

アブラハムはサラ亡くなった後、ケトラを妻にしました。神さまは約束された通りに祝福され、ケトラに6人の子が与えられ、その祝福は世界中に広がり始めました。しかしアブラハムには喜びばかりでなく、心の中に心配事が渦巻いていました。

後継者はイサクです。でも子どもが多くなれば確実に紛争が起きます。イシュマエルを遠ざけたように、ケトラの息子たちもイサクから遠ざけました。後継者であるイサクに害が及ばないようにです。

アブラハムが亡くなったとき、イシュマエルもともにそこにおり、イサクと一緒にアブラハムをサラが埋葬されている墓に葬りました。アブラハムは紛争を避けるためにした行動でしたが、神さまはそれを超えて、異母兄弟でともに葬ることを通して語られる想いを私たちはしっかりと聞かせていただくのです



Read God's Word.